



N037 発達障がいのある子どもへの理解と対応

— 教育センター公開講座から part3 —

今回も前回に引き続き、事例をもとに対処を考えてみます。

【事例2】

小学校1年生の男児 やすおくん

—授業中、ずっとおしゃべりをしている。先生が一言言うとすぐに反応しておしゃべりする。

—例：算数の授業で

- ・「さあ、今日も計算をしますよ。いいですか？」
- ・「割り算がいい！割り算！」
- ・「さあ、昨日は足し算をしましたね。」
- ・「やだ！割り算！足し算なんて簡単だもん！」
- ・「はい、この問題わかる人！はい、やすおくん。」
- ・「あれ、やすおくん、手を挙げたのにわからないの？じゃそこに立っていてね。」



この子にどういった関わりができるだろうか？

“注意欠如・多動性障害（ADHD）” という視点から考えてみると…

<特徴>

- 1) 多動
落ち着きがない
- 2) 注意散漫
人の話に集中できない，うわの空，忘れやすい
- 3) 衝動性
待つことができない，せっかち，カッとしやすい

保護者の苦勞

- ・常にイライラした関係性
- ・周囲から非難を受けやすい
- ・自責と子への攻撃性

↓
保護者へのサポートも必要

《やすお》

- ・授業中，勝手に話をしてはいけないと「わかっている」のに，忘れてしまう。
- ・待てない，考える前に行動してしまう等，自分の行動にブレーキがかけられない。
- ・うまくできないことのもどかしさを常に抱えている。



《教師の対応》

- ・わかりやすく，見通しどおりに生活を進ませるための構造作りをする。
(ex) 注意が散漫にならないよう余計なものは机や教室から排除する，単純明快で簡潔な指示をする
- ・良い行動を肯定的に強化し，良くない行動は無視して強化しない。
(cf) 叱ることが「周囲の注意を引く」ことになり，子ども側の「報酬」になる危険性がある。
- ・褒める，認める，勇気づけること等で，成功体験を増やし，自己肯定感を高める。